

第6学年1組 図画工作科 学習指導案

児童数 17名
 指導者 榎本 浩子
 場所 図工室

1 題材名 「わたしはデザイナー 12さいの力で」
 ～楽しい仕組みがあって生活の中で役立つオリジナルBOXをつくろう～

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、図画工作の授業に意欲的で、楽しく取り組んでいる。これまでに、「感じたままに花」では、見たものの形や色、印象などをもとに描画材料の扱いや画面構成の工夫など、自分なりのかき方を見つけながら、絵に表す楽しさ、快さを味わってきた。「切った粘土の切り口から」では、粘土を塊からテグスなどで切り分けたり、板状のものから切り針で切り起こしたりして、変化に富んだ断面の形状や自由に形成できる特性などを味わいながら、構成したり分断したりを試しながら立体に表すことを体験した。扱う材料や用具、技法の種類が増え、自分の表したいことに合わせて材料や用具を選ぶことができるようになってきている。その一方で自分の思いをどのように表現したらよいかわからなかったり、技術が伴わず自分の表現したいものがつくれず戸惑ってしまう児童もいる。

(2) 題材について

本題材は、形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う活動である。また、中学校の技術科につながる題材でもある。材料や用具からつくったものが生活に使える喜びを大いに感じさせたい。

(3) 指導について

指導にあたっては、誰が、いつ使うのか、どんな材料や方法でつくるのかについてアイディアスケッチをもとにイメージをふくらませたり構想を練ったりする導入の工夫をし、意欲的に取り組めるようにしたい。また、発想が苦手な児童もイメージを広げられるよう、身のまわりにある楽しいデザインの入れ物を見たり作品例を見たりするなどして関心を高めたい。蝶番をつけることで楽しい仕組みを考えたり、箱の中に工夫を考えたり、引き出しをつくらせたりするなど、さまざま工夫が生まれる。つくっていくうちに自分なりのアイディアや工夫の楽しさに気づき、世界に一つだけの自分だけの入れものを手にする喜びを味わうことができるようにしたい。

鑑賞に関しては、創意工夫したことを互いに紹介し合う場面を適時設定し、作品づくりへの意欲を刺激したり、表現を広げさせたりして、つくる楽しさ、見る楽しさを味わわせたい。

3 題材の目標

- ・これまでの学習で身につけた知識や技能を生かし、板材や角材を使って、自分らしい楽しい仕組みを工夫し、使える入れ物をつくる。
- ・自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、自分のイメージをもつこと。[共通事項]

4 評価規準

造形への関心・意欲・ 態度 関	発想や構想の能力 発	創造的な技能 創	鑑賞の能力 鑑
材料や用具を選び、自分の思いに合わせて、つくって楽しむものをつくることに意欲をもって取り組もうとしている。	材料の特徴やつくりたいものの大きさ、形などから見通しをもったつくり方を考え、構想をっている。	形や色の美しさや面白さ、用途を考えて自分なりの工夫をしている。	友だちと自分の発想や表し方の違いに気づき、互いのよさを認め合っている。

5 指導と評価の計画 ○本時2 / 8

	学習活動	指導上の留意点	評価
1	<p>○材料の板に触れながら、使ったのしい入れ物を考える。</p>	<p>○参考作品を通して、つくりたいものの形や色、つくり方をイメージできるようにする。</p> <p>○つくりたいものの形がイメージできるようなアイデアスケッチの紙を用意し、デッサンさせる。</p>	<p>発 材料の特徴や、つくりたいものの大きさや形などから見通しをもったつくり方を考えようとしている。</p> <p>・発言・表現</p>
② 3 4	<p>○板と同じ大きさの紙を使って、大きさや形の見通しがもてるように簡単につくってみる。</p> <p>○板に部分の形をかいて切る。</p>	<p>○紙を使ってシュミレーションすることで見通しがもてるようにする。</p> <p>○アイデアは、つくりながら変わっていくものだということを押さえる。</p> <p>○のこぎり、電動糸のこぎりを使い分けるなど、これまでの経験を生かして制作できるようにする。</p> <p>○板をむだなく使えるような木取りを考えるようにする。</p>	<p>創 大きさや形など、作り方の見通しをもって紙で試し、板を切っている。</p> <p>・発言・表現・行動観察</p>
5 6 7	<p>○切った板を接着剤やくぎなどで組立、自分らしさが現れるような工夫をする。</p>	<p>○接着、くぎ、蝶番など、さまざまな組み立て方を選んで組み立てていけるようにする。</p> <p>○紙やすり→組み立て→色塗りの順序を確認する。</p> <p>○木材のもつ模様や色生かしたい子、着色したい子、彫刻をしたい子など、各自の考えに応じて仕上げをさせる。</p>	<p>関 創 形や色の美しさ、自分のつくりたいものへ向けて、試行錯誤しながら自分なりの工夫をし、進んでつくっている。</p> <p>・発言・表現・行動観察</p>
8	<p>○実際にいろいろなものを入れてみて、友だちと互いの作品のよさや工夫を紹介する。</p>	<p>○友だちと自分の発想や表し方の違いに気付けるようにする。</p> <p>○感じとったよさや自分の工夫したことなどを発表し合う。</p>	<p>鑑 互いの発想の違いや、表し方や工夫のよさを認め合っている。</p> <p>・発言・表現・行動観察</p>

5 本時の学習（本時 5・6 / 8）

(1) 目標

・つくりながら発想したことを表現していく。

創

(2) 準備

○教師：方眼用紙、接着剤、蝶番、くぎなどの木工金具、万力、はたがね、クランプ、のこぎり、糸のこ機、ベルトサンダー、紙やすり、木工やすり、ドライバー、きり、ガムテープ、セロテープ、カッターマット

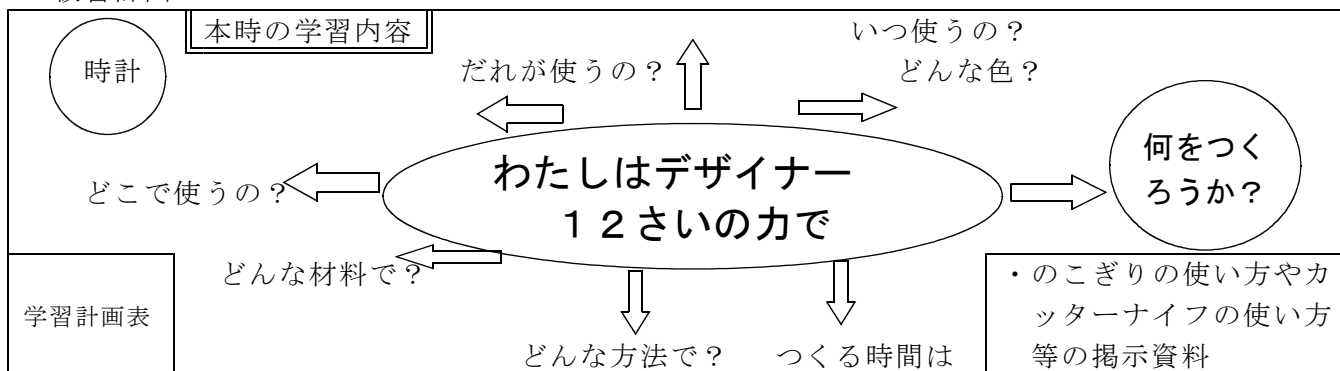
○児童：自分の表現に必要な身近材料、はさみ、カッターナイフ、定規

(3) 展開

	学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ◎評価 〔共〕 共通事項に係る内容
5 分	1 前時の活動を振り返り、 本時の学習のおよその見 通しをもつ。		○前時にかいたつくりたいものがイ メージできるようなアイディアス ケッチを紹介し、本時の活動の方 向性を伝える。 ○蝶番などの使い方について確認す る。
3 0 分	2 方眼紙を使って、イメ ージをふくらませてつく る。 ・ 形を組み合わせ、自分ら しい工夫を加え組み立て る。 ↑ 行き戻り ↑ ・ できた入れ物を基にさら に思いや願いを広げたり、 深めたりしながら活動す る。	○組み立て方の工夫 ・ 開くところ ・ 引き出し ・ 大きさ ○開閉式のふたのつく り方 ・ 蝶番 ・ 布帯 ○安全な道具の使い方 ・ はさみ ・ 段ボールカッター ・ カッターナイフ	○作品が完成するまでの計画を掲示 したり、本時の活動の時間を確認 したり、見通しをもって活動でき るようにする。 ○自信をもって活動できるように、 活動の様子を観察したり、対話し たりしながら、児童の活動への思 いや願いを共感的にとらえられるよ うにする。 ○活動が進まない児童には、対話し ながら、思いにあう支援をする。 必要に応じてアイディアを提供し たり、組み立て方を支援したりす る。 ○入れて使うものの仕組みなどの造 形的な特徴をとらえ、それをもと に自分のイメージをもつことがで きるようにする。〔共〕 ○活動の途中であっても必要に応じ て自由に鑑賞させたり、参考作品 を見に行かせたりし、表現が広が るようにする。 ◎大きさや形などつくり方の見通し をもって方眼紙で試し自分なりの 工夫をする。【創造的な技能】

			(十分できる状況) →用途を考えて自分なりの工夫が できている。 (努力を要する子への手立て) →対話しながらイメージを広げ させ組み立て方を支援する。
1 0 分	3 本時の活動を振り返り、 自分の学習状況を確認す る。	○後片付け ○作品鑑賞 ○振り返り	○友だちと協力をしてすばやく後片 付けをさせるようにする。 ○作品を鑑賞し、工夫したところを 認め合い、次時の活動の参考にする。 ○ 本時の活動を称賛し、次時の活動 への期待を高めてまとめとする。

6 板書計画



場の設定

